

# 小貝川の水害の歴史

## 小貝川の概要



小貝川の源流：小貝ヶ池(栃木県那須  
烏山市曲火田)

全長：約11.8km (栃木県と茨城県をまたぐ)

流域面積：1043km<sup>2</sup>

関東平野を北から南に流れる一級  
河川。昔は養蚕川と表記され、頻繁に水  
害を起こす「暴れ川」として知られています。

## 結果

小貝川周辺と利根川との合流地点では  
約20箇所がこれまで決壊し、特に高須、  
大留豊田での被害が大きかった。決壊の箇所を  
観察すると川幅が狭いと急カーブが多  
く見えた。特に急カーブ場所には川岸に川のゴミ  
がたぐん溜まっている様子が見られた。昔の  
新聞記事では、決壊情報が住民に伝わるのが遅  
かったと記載があった。地元の人へのインタビュー  
では決壊に備えて、土の沓竹竿などを地区ごと  
に備えていた。決壊に備えた行政の治水整備  
として木門や堰、排水機場、土の改良をしている。

## 考察

急カーブにゴミが溜まっていたことから、急カーブ  
では水の流束が悪くなり、圧力が上がりやすいことで  
決壊しやすいのではないかと考えた。また川幅が狭い  
ことが悪化するさらに決壊しやすいのではないかと考えた。  
これまでの決壊では住民への情報提供が遅かった  
ため自分で情報を得るために小貝川周辺にカメラ  
を設置したり、氾濫危険水位のレベルが目印になる標識  
を設置したりと過去の教訓が活かされていると感じた。  
行政が治水整備をすることはとても重要であるが、  
地元の人々が協力し、災害時の事前準備を  
したり、地域の人どうしがつながりを持っておくことが  
水害対策を押し進めようと思った。

# 歴史

茗溪学園中学校  
2年 高谷奨平



## 動機

僕の祖父母は茨城県龍ヶ崎市の近く、龍ヶ崎市の近  
くには小貝川という川があり、昔大雨が降ると川が氾濫  
し、家が水浸しになりました。祖父母が生まれる前にも  
何回も川が氾濫して居るので、国土地理院の地図で  
調べてみると、小貝川周辺に自然伝承碑の地図記号が  
多くありました。そこで、小貝川周辺で起こった水害に  
ついて詳しく調べてみることにしました。

## 目的

昔どんなところで川が氾濫し決壊したのか、またどう  
いったところが決壊しやすいのか。現地を訪れたり資料  
館や図書館などで当時の状況が記載してある資料を見たり  
して調べる。

【参考文献】  
地理院地図  
小貝川の水と治水の歴史 | 龍ヶ崎市公式ホームページ  
小貝川・利根川  
小貝川 | 龍ヶ崎ふるさと公式ホームページ  
小貝川 | 龍ヶ崎が栄えた1911年5月25日茨城新聞社  
決壊口はほげせせめ茨城新聞社  
わたしたちの龍ヶ崎